

【予防策】

- ・容器を密閉しておくこと。
- ・熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。
- ・保護手袋／保護眼鏡／保護マスクを着用すること。
- ・取扱い後は良く手を洗うこと。
- ・静電気放電に関する予防措置を講ずること。
- ・火災を発生しない工具を用いること。

【対応】

- ・皮膚に付着した場合は、多量の水と石けんで洗うこと。汚染された類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・皮膚刺激が生じた場合は、医師の診察／手当てを受けること。
- ・眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを用いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診察／手当てを受けること。

【保管】

- ・換気の良い場所で保管すること。

【廃棄】

- ・内容物／容器は地方自治体の規則に従って廃棄すること。

国／地域情報：「15. 適用法令」の項 参照

3. 組成及び成分情報

単一製品／混合物の区別：混合物

製品の化学特性に関する情報

成分

| 成分名 | 含有量 (%) | CAS No. | 官報公示整理番号 |
|--------------|---------|------------|-----------|
| ケロシン ※1 (灯油) | 25～35 | 64742-81-0 | 9-1702 |
| 界面活性剤 | 3～8 | 非公開 | 非公開 |
| 水 | 60～70 | 非公開 | 7732-18-5 |

※1：労働安全衛生法通知対象物質

4. 応急措置

- 吸入した場合：患者を風通しの良いところに移して安静にする。大量に吸入した場合には、速やかに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合：汚染された衣類は脱ぎ去り、多量の水及び石けんで洗い流す。皮刺激が生じた場合は、速やかに医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、速やかに医師の手当てを受ける。
- 飲込んだ場合：無理に吐き出そうとせず、水で口をすすぎ、速やかに医師の手当てを受ける。

応急措置をする者の保護：救助者が有害物質に触れないように保護具を着用する。

5. 火災時の措置

- 消火方法 : 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。初期の火災には粉末、炭酸ガス、乾燥砂などを用いる。大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。周囲の設備などに散水して冷却する。消火作業の際は、必ず保護具を着用する。消火作業は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。消火のための放水などにより、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な措置を行う。
- 消火剤 : 泡消火剤、炭酸ガス、粉末消火剤、乾燥砂

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない
- 保護具及び緊急措置 : 直ぐに全ての方向に適切な距離を漏洩距離区域として隔離する。
関係者以外立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入をさける。
風上に溜まる。低地から離れる。
密閉されて場所に立ち入る前に換気する。
漏洩しても火災が発生しない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出されないように注意する。
- 除去方法 : 少量の場合には、乾燥砂、ウエスなどに吸収させて密閉できる容器に回収する。大量の場合には、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。製品を吸着または吸収したものは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従って適正に処理する。外部委託の場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。（「13. 廃棄上の注意」の項 参照）

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 吸入、接触のおそれがあるときは、適切な保護具を着用する。電気、静電気、衝突火花などによる着火源が生じないようにする。
- 注意事項 : 暴露防止のため、保護具を着用して作業を行う。取扱場所では換気を充分に行い、また近くに手洗い、洗眼などの設備を設ける。
- 安全取扱注意事項 : 取り扱う前に全ての安全注意を読み上げる。
必要な個人用保護具を使用する。
- 保管
- 技術的対策 : 通風を良くし、蒸気が滞留しないようにする。火気、熱源よ

- りざける。
- 混接触禁止物質 : 強酸、強アルカリ、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管避けること。
- 保管条件 : 漏洩の防止。容器を密閉し、直射日光を避け、高温物を近づけない。換気良好な冷暗所*に保管する。（* 0℃以下になるような場所には保管しない）

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 規定なし
- 設備対策 : 取扱いについては全体換気装置を設置した場所で行う。
- 保護具 : 必要に応じて、呼吸用保護具（有機ガス用防毒マスク）
保護手袋、保護眼鏡、保護衣を着用する。

含有成分の許容濃度

| 成分名 | 管理濃度 (労安法) | 許容濃度 | |
|-----|---------------|-----------------------------|-------------------------------|
| | | 日本産業衛生学会 | ACGIH TLV-TWA |
| 鉱油 | --- | 3mg/m ³ (オイルミスト) | 200mg/m ³ (オイルミスト) |

9. 物理的及び化学的性質

- 外観等 : 白色乳化液体
- 臭い : 石油溶剤臭
- 引火点 : なし
- 融点・凝固点 : 0℃以下
- 初留点 : 100℃以上
- 沸点範囲 : 100～310℃
- 爆発範囲 : 下限 1Vol% 上限 7Vol%
- 比重 : 0.93～0.98 (20℃)
- 溶解性 : 水に対する溶解性：不溶

10. 安定性及び反応性

- 安定性・反応性 : 通常の使用条件下では安定性が高い。
- 避けるべき条件 : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、強酸化剤との接触を避ける。
- 避けるべき材料 : 現在の所有な情報なし。
- 危険有害な分解生成物 : 燃焼の際は、煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

11. 有害性情報

- 皮膚腐食性・刺激性 : 区分 2
- 発ガン性 : 区分 2
- 特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)
: 区分 3
- 吸引力呼吸器有害性 : 区分 1

12. 環境影響情報

| | |
|-----------|---------|
| 生体毒性（魚毒性） | : データなし |
| 残留性／分解性 | : データなし |
| 生体蓄積性 | : データなし |

13. 廃棄上の注意

| | |
|---------|--|
| 残余廃棄物 | : 本製品を含む廃棄物は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律で特別管理産業廃棄物（廃油）に規定されているため、法令に従って適正に処理する。 |
| 汚染容器／包装 | : 空容器は内容物を完全に使い切った後、産業廃棄物として処理する。包装材料は産業廃棄物として処理する。 |

14. 輸送上の注意

| | |
|------|---|
| 国連分類 | : なし |
| 国連番号 | : なし |
| 注意事項 | : ・ 容器漏れのないことを確かめ、損傷が無いように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。 ・ 容器積み重ねる場合には、高さ 3 m 以下とする。 ・ 第一類、第六類の危険物及び高圧ガス（一部省く）とは混載できない。 ・ 消防法の危険等級Ⅲに準ずる運搬容器に収納して運搬する。 |

15. 適用法令

| | |
|------------------|--------------------------------------|
| 消防法 | : 非該当 |
| 労働安全衛生法 | : 有機則 非該当 通知対象物質 灯油（政令番号 第 380 号） |
| 毒劇物取締法 | : 非該当 |
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | : 特別管理産業廃棄物（廃油） |
| 化学物質管理促進法（PRTR法） | : 該当しない |

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。また、新しい知見の発表により内容に変更が生じることがあります。なお、含有量、物理的及び化学的性質等の数値は保証値ではありません。

また、記載事項は通常の手扱いを対象としたものですので、特別な手扱いをするなどの場合はこの点にご配慮をお願いいたします。

参考文献

- (1) 日本工業規格：化学物質等安全データシート（MSDS）－Z 7 2 5 0：2 0 0 5（2005）

- (2) 社団法人日本化学工業協会：G H S 対応ガイドライン（平成18年）
- (3) 独立行政法人製品評価技術基盤機構：G H S 分類結果データベース
- (4) 社団法人日本化学工業会編：化学便覧
- (5) 溶剤ハンドブック（講談社）
- (6) 石油製品安全データシート作成の手引き（石油連盟）
- (7) 分類対象物質一覧公表分（独立行政法人製品評価技術基盤機構）